

5月15日(水)–16日(木) ICPD30 周年グローバルダイアログ
「Demographic Diversity and Sustainable Development」
穂坂外務大臣政務官挨拶

シェイク・ハシナバングラデシュ人民共和国首相、モハンマド・ハサン・マームードバングラデシュ外相、ロケヤ・スルタナバングラデシュ保健家族福祉大臣、ペトコ・ドラガノフブルガリア共和国外務省特命全権大使、ナタリア・カネム UNFPA 事務局長、御列席の皆様、

冒頭

日本政府を代表して、また、国際人口問題議員懇談会のメンバーとして挨拶いたします、外務大臣政務官の穂坂泰です。本日、国連人口基金 (UNFPA)、バングラデシュ、ブルガリアとともに『「ICPD30 グローバルダイアログ「Demographic Diversity and Sustainable Development」』を、日本が共催することを大変光栄に思います。

グローバルダイアログの開催にあたりご尽力いただきました UNFPA と会議のホスト国を務められるバングラデシュ政府に敬意と感謝を表します。

人口と開発

世界人口の変動は、あらゆる開発課題と密接に関連し、開発のあり方に大きな影響を与えます。各国が人口動態の変化を的確に捉え、予測することは、持続可能な開発のために極めて重要です。

しかし、その変動は各国・地域で一様ではありません。世界全体では人口の増加が続いており、現在は 80 億人超の人口が 2080 年代には約 100 億人に達すると予測されています。

この状況下で、サブサハラ・アフリカの国々は、高い出生率への対応を迫られています。一方で、アジアやラテンアメリカでは、人口ボーナスをどう活かすか、例えば雇用を含む若者のエンパワーメントが課題です。さらに少子化と高齢化が進展する国が先進国のみならず、途上国においても増加しつつあります。

また、国際的な人の移動、人口の偏在等にも注目する必要があります。例えば、難民や国際労働力の課題、人口の都市集中に伴う社会サービスの供給等への対応も課題となっています。

さらには、人口の増減だけが問題になるわけではありません。女性が妊娠や出産に関して十分な情報を得て自ら決定できるという「性と生殖に関する健康と権利」や、女性のエンパワーメントに関する取組を進めていくことは、人間の尊厳や人権といった観点からも不可欠です。また、母子保健サービス、栄養、慢性疾患対策などへのアクセスを確保することは、一人ひとりの生活の質を高めるにあたって欠かせません。

日本の果たす役割

このように人口問題には、様々な視点が求められ、一筋縄ではいきません。この複雑な人口問題への対応に際して、基本的な視座となるのが、日本が開発協力の指導理念と位置づけ、国際的に主導してきた「人間の安全保障」だと考えます。言い換えれば、人間一人ひとり、特に最も脆弱な立場の人々へのまなざしが重要です。

この観点から、様々な人口問題へのアプローチの中で重要なものの一つが、グローバルヘルスの取組であり、日本が旗手となって普遍化に努めてきた、より強靱、より公平、より持続可能な ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成であると考えます。

日本はかねてよりこの UHC の達成を念頭におきながら「人口と開発」分野への取組を推進しており、UNFPA 等に対する資金拠出を行ってきました。また、日本の知見や経験をもとに、国連総会、WHO 総会、G7、G20、TICAD 等の国際的な議論の場において、人間の安全保障や UHC の重要性の発信を行ってきました。

結語

ご列席の皆様、日本は UNFPA を始めとするパートナーとともに、ますます多様化する人口動態と持続可能な開発の議論を世界的に牽引していきたいと考えます。

ICPD から 30 年を迎える今、今一度 ICPD 行動計画の進捗を確認し、80 億人以上の人口を抱える世界のあり方を協議できる場になることを期待して、ご挨拶いたします。

御静聴ありがとうございました。